

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

〇〇高校 地歴・公民科 〇〇 〇〇

今回は新科目「歴史総合」を意識した授業作りに挑戦した。授業準備の段階で一番苦労したのは史資料集めである。手にした実践事例集にはどの事例においても生徒の思考を活性化させるのに大きな効果をもつ史資料がいくつも掲載されていたが、それらのほぼ全てが普段の授業で使用している教材には載っていないものばかりであった。自分でもそのような史資料を用意したいと思い、幾つかの書籍を手にするなどしてみたが、時間的・経済的な制約もありほとんど何も得ることができなかった。結局私が用意できたのは、世界史Aの教科書からの引用文や自分で作成した簡易年表であった。「史料」を用意できなかったこと、用意できた「資料」も満足いくものではなかったことは大変悔やまれる点である。効果的な史資料を得るためには、やはり普段からそのことに気を配っておかないといけないと感じた。

公開授業では、生徒がよく頑張ってくれたと思う。提示された資料と粘り強く向き合い、よく考え、周囲と協働してくれた。授業後の研究協議において、用意していただいた質問と参観者に出していただいた感想・意見は凡そ次の通りであった。

〈授業のどの部分が「主体的な学び」であると感じたか〉

- ・ 生徒が率先して資料読解に励んでいた。
- ・ 生徒が粘り強く取り組んでいた。
- ・ 普段の授業から史資料読解の機会を設けているのか？

〈授業のどの部分が「対話的な学び」であると感じたか〉

- ・ 最初の個人で考える活動において、各生徒が自分と対話していた。
- ・ グループ活動において積極的に意見を出し合っていた。
- ・ 行き詰まっているグループに対し、授業者が「助け舟」と言って補助資料を渡していた。
- ・ 机間巡視をする授業者とのやり取りから答えを見つけ出せた生徒がいた。

〈授業のどの部分が「深い学び」であると感じたか〉

- ・ 問いに対する答えを自分の言葉で表現していた。
- ・ グループで話し合った結果を板書して、他グループと共有した。

〈どうしたらより「深い学び」に達したと思うか〉

- ・ 生徒が答えを板書した後の解説を授業者が行ったが、なぜそのような答えに達したのかという思考の過程も生徒自身に発表させたら良かったのではないかな。

このような感想・意見を得られたことで、ある程度は「主体的・対話的で深い学び」を達成できたような気がして少し安堵した。だが課題も多い。1つはやはり「史料」読解の要素を取り入れることである。この科目は「史料」と「資料」の読解の機会をバランス良く設けてこそ主体性も対話も促進されるのではないかと感じている。2つ目は評価のあり方である。今回はひとまず評価の方法を設定することはしてみたが、評価の評定化を考えるとところまでは至らなかった。新学習指導要領の施行は刻々と迫っている。本格的な吟味を重ね、施行までに評価のあり方を確立させなければならない。